

教育に新聞を —NIE月間特集

新聞っておもしろい!

幼稚園



知っているもじ
みつけた!

好きな写真で すごろく作り

神栖市立石神幼稚園
石川 美智子 園長

新聞を広げて、みんなで知っている文字を探したり、好きな写真を選んで切り抜き、どうして選んだか、コメントを書いたりする活動をしています。最近では、好きな写真で、すごろくを作っています。

幼稚園で新聞活用?最初は「そんな無理」と思っていたのですが、すごろくなどは、よく考えて作っているなあ、と感心するばかり。

ホームランを打った野球選手の写真を切り抜いて「2こ すすむ」とか、ゴールのこまは試合に勝ってみんなで喜ぶシーンの写真を使うとか、子どもの発想はすごい、と日々感じます。

みんなで作ったすごろくで遊ぶのは、格別です。

(日本新聞協会 NIEアドバイザー)



ホームラン
2こすすむ

中学校

作った学級新聞を コンクールに出品

行方市立玉造中学校
川島 盛寿 教諭

新聞を身近に感じてもらえるように「NIEコーナー」を作ったり、各学年のフロアへ新聞閲覧台を設置したり、生徒が作った新聞をコンクールに出品したりして、新聞を授業や生活に生かす環境を整えてきました。

国語科と社会科で新聞を活用した対話的な活動に取り組んでいます。

生徒が社会の一員であることを実感でき、社会の出来事から話題を見つけたと同時に、自分の考えを深めたり広げたりする力が身に付いてきたように感じます。

(茨城県NIEアドバイザー)

NIEコンクール作品募集中!

茨城新聞社は、県教育委員会と「県教育広報・NIEコンクール」を実施しています。児童・生徒が作った学級新聞や教師が手掛けた学級だより、PTA、自治会、公民館の広報紙なども対象です。

①児童・生徒作成②教師作成③教育広報紙④NIE実践の一の4部門から成る大型コンクールで、本年度で30回を数えます。応募締め切りは来年1月末です。詳細は茨城新聞社NIE事務局までお問い合わせください。



Newspaper in Education

「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している2020年の教育改革を前に、新聞を教材として活用するNIE(エヌ・アイ・イー)が注目を集めています。11月は「NIE月間」。全国各地でセミナーやコンクールが予定され、本県では実践指定校の公開授業も始まります。「新聞っておもしろい!」。県立潮来高校の呼び掛けで、幼稚園、小学校、中学校、高校が連携し、NIEを推進しようという動き出した鹿行地域の実践者に話を聞きました。

小学校



神栖市立大野原小学校
山本 玲子 教諭

担任する5年生のクラスで、朝の会に「ニュース係」が誕生しました。新聞を読んで気になるニュースを発表する係で、児童たちが主体的に作った関係です。「いつも先生が新聞記事の話をしてくれるので、それなら自分たちも...」というのが、係を作った理由だそうです。

投影機で新聞をスクリーンに映し出し、みんなでその話題について、意見を交わします。会話が弾むと、別のニュースを発表してくれる児童も現れて、世界がどんどん広がっていきいます。5年生は全クラスで「はがき新聞」に取り組みしています。学習成果のまとめに便利で文字数が限られているので、気軽に作れ、簡単に書ける力も身に付きます。(茨城県NIEアドバイザー)

朝の会に「ニュース係」

「NIEタイム」始めよう!

日本新聞協会では、朝の10分程度の時間に新聞を継続的に読む活動「NIEタイム」を薦めています。週1回程度の無理のない実践で、読む力、書く力を伸ばすことができます。自分で記事を選び、スクラップして感想を書いたり、「1分間スピーチ」を行ったりするので、主体的な学びにもつながります。

(茨城新聞社NIE事務局長、澤畑和宏)

コラムで表現力アップ

新聞の記事は、事実を伝える記事と、意見や主張を伝える「コラム」や「社説」があります。1面のコラムは、記者の個性が出ていて、新聞によって文字数もそれぞれです。茨城新聞の「いばらき春秋」は約500字です。コラムを毎日読んだり、書き写したりすると、文章力や表現力が身に付き、時事に詳しくなる。「美文字」になる、ともわれています。

(茨城新聞社NIEコーディネーター 金澤谷子)



茨城県新聞教育研究会
高橋 俊英 会長

茨城県内では、小学校や中学校、高校で、新聞が教材として活用されています。教員の自主的な研究組織「茨城県新聞教育研究会」は、1987年からNIEの推進に取り組んできました。これまでの活動を整理して、ひとことで表現すると、「記事レク」です。①記事を読みなにレクチャーする②新聞を使って楽しくレクリエーション③記事をフレキシブルに活用する。

選挙権年齢や成人年齢の引き下げが進む中、「学校と社会をつなぐ窓」とも言われる新聞を読んで活用する活動が重要となってきています。

今こそ、「記事レク」を楽しみましょう!

(県立下館工業高校校長)

Q NIEって?

「Newspaper in Education」の略。「教育に新聞を」と訳されます。教育界と新聞界が協力し、社会性豊かな青少年の育成を目指す運動で、現在、47都道府県にNIE推進協議会が設立されています。日本新聞協会では「NIE実践指定校」制度を設けて、学校での新聞活用を促進。実践指定校になると、本県の場合、茨城新聞のほか県内で発行されている計7紙の提供が受けられる特典があります。本県の実践指定校枠は13校です。

指定校で環境整備 「まわしよみ」実践

高校

県立潮来高校
飯山 美都子 校長

本年度、日本新聞協会のNIE実践指定校に認定されました。茨城県NIE推進協議会と茨城県新聞教育研究会が主催するセミナーに参加後、さっそく「まわしよみ新聞」を実践。新聞に親しんでもらう環境づくりから始めました。

まわしよみ新聞は、気になる記事を切り抜き、グループでプレゼンテーションしながら壁新聞に再編集するワークショップです。ほかに道徳の授業で、新聞活用の実践を始めたところです。

各段階に応じて新聞を活用した授業が展開できたら効果的と考え、鹿行地域で幼小中高連携を模索しているところです。

(茨城県新聞教育研究会副会長)



新聞を楽しもう!

新聞をとにかく楽しもう! 幼児なら新聞紙遊びから、小学校低学年は写真から親しむことで、新聞に楽しく触れることができます。高学年以上になっても、興味があるところから情報に接すれば、社会に関心を広げることができるようになります。そこから、他者理解が深まり、自己の成長へと結びつくと考えています。

(茨城新聞社NIEコーディネーター、坂場安男)

【問い合わせ先】茨城新聞社 NIE事務局
☎029(239)3004 FAX029(301)0361
メール chiiikirenkei@ibaraki-np.co.jp



公式
FB
ページ